

シリーズ わたし す きょうと 私の好きな京都

きょうと わたし あたら 京都、私たちの新しいふるさと

アルニディス ヴァシリス (ギリシャ)



◆ 自己紹介

私はヴァシリスです。ギリシャ出身の40歳です。イギリスに長く住んでいました。6年半前に京都に移り住み、日本人の妻、娘と一緒に暮らしています。

私はゲストハウスで働きながら、電気工事の仕事もしています。そして時々、ハイキングやキャンプなど、観光客向けのアウトドアツアーを行っています。現在は、京都に住む外国人の方に京都の面白い場所やアクティビティを知ってもらいたいという思いから、京都案内倶楽部のボランティアをしています。

◆ 京都の好きなところ

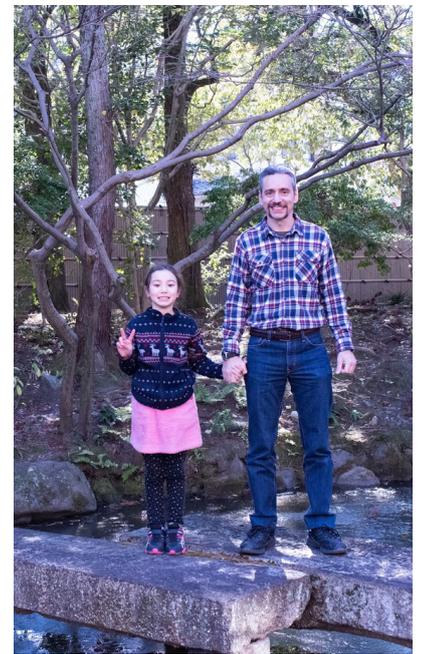
私が京都を好きな理由は、観光的な雰囲気と、日本の伝統的な都市と郊外の特徴が見事に組み合わせられているからです。そして、ヴェネツィア(イタリア)やアテネ(ギリシャ)などのように、観光客に特別な体験を提供しています。また、仕事からリラックスモードに気持ちを切り替えるのがとても簡単で、訪れる価値のあるスポットがいつも近くにあります。

◆ 京都のおすすめスポット

京都では、ほとんどの場所に簡単にアクセスできます。中心街からでもバスで15分ほどで山や村にアクセスできます。しかし、私がイギリスにいたときは、通常は車で数時間かかっていた。特に私のおすすめの比叡山は、山頂から琵琶湖を一望できます。

◆ 娘からのおすすめ

彼女は下鴨神社のイルミネーションイベント「Digitized Forest」が一番面白くて、思い出に残っていて、京都のお気に入りスポットです。また、kokokaのオープンデーも好きだそうです。



著者と娘さん

インタビュー：町野 陽一 / ジミー (許 俊暉) 翻訳：小谷 仁美 / 生田 稔

◎あなたの感想を聞かせてください！ → office@kcif.or.jp

外国人のための情報誌「Life in Kyoto」でPRしませんか？
ADVERTISE your activities in the "Life in Kyoto" newsletter!



1枠 10,000円～ ☎075-752-3511 ✉office@kcif.or.jp

広告募集中!!

「Life in Kyoto」を一緒につくりませんか？

ボランティアスタッフ募集

企画、取材、執筆、編集...etc
あなたの「得意」を活かしませんか？

お気軽に お問合せください ☎075-752-3511 ✉office@kcif.or.jp



『Life in Kyoto』30周年インタビュー

外国人のための暮らしと文化の情報誌『Life in Kyoto』（以下、LIKとします）は1991年に始まり、今年で30周年を迎えます。ボランティアが中心となり、現在では年に4回発行しています。LIKの生みの親であり、kokokaのスタッフである岡本昌也さんにお話を聞きました。



岡本昌也さん

1. LIKを作ったきっかけは何ですか？

現在も発行されている『市民しんぶん』という京都市の情報紙があります。1991年、その英語版を作り始め、京都に住む外国人に役立つ情報を集めました。初めは、ボランティアの皆さんに翻訳をお願いしていました。その後、次第に取材や記事作成、編集もして頂くようになりました。

2. ご自身が思うLIKの良さは何ですか？

ボランティアによる手作り感です。ボランティアが実際に体験した情報を載せていることや、紙媒体ということも貴重だと思います。一方で、インターネットの情報に比べ遅く、読者の関心に応える内容かどうか常に問われていると思います。また、ボランティアの確保や、読みやすい日本語を意識して記事を書くことも課題です。

3. LIKの制作にまつわる印象的なエピソードは？

初めは8月と12月を除き、毎月2回、一年に22回発行していたとは信じられません。モノクロで4ページ、ワープロで記事を打ち、はさみとりのり、紙を使ってレイアウトを作っていました。当時働いていた外国人の国際交流員*による英文コラムを日本語に訳し、本にしたことも印象に残っています。



LIKの初版と英文コラムの本

4. 読者に伝えたいメッセージをお願いします。

読んでいただきありがとうございます。この時代に印刷物としての価値をどこまで高められるかが課題です。皆さまからのご意見を頂ければ、内容も充実したものとなります。これからもご支援よろしくお願いたします。

*JETプログラムという事業で、国際交流活動のために地方公共団体に配属される外国人のこと。

きょうとなま 京都生 ショコラ オーガニックティーハウス

京都では思わぬ出会いがあります。平安神宮から東に10分足らず歩いた小さな通りに面する古民家を利用したティーハウス*を偶然見つけました。入口で赤く色づくモミジをくぐり店に入り玄関で靴を脱ぎ、庭が見える古風で落ち着いた和室に通されて畳に座りました。セット(ショコラ・オーガニックコーヒー・野草茶)を注文しました。切花が添えられた皿に出てきた4種のショコラの中から抹茶味を一噛みしました。柔らかな食感と同時に抹茶とショコラの味がミックスして口全体に広がり最高でした。続いてコーヒーを味わうと共に口の中をリフレッシュし、別のショコラを楽しみました。これで1100円とは納得です。

シェフの中西さんは、東京のホテルオークラでフレンチを学びニューヨーク日本領事館で料理人を務めました。シェフ夫人のシェリーさんは、カナダ出身で「不思議なちようちょ」という子ども向けのオーディオ絵本を作り、kokoka 京都国際交流会館に贈っています。その絵本は館内2階のkokoPlazaで読むことができます。



4種のショコラはビターにスイート
それに抹茶やベリーをトッピング

* <https://www.kyoto-namachocolat.com/>

ふるた とみよし
古田 富好

Study Kyotoで外国人コミュニティを探してみませんか？

Study Kyoto (留学生スタディ京都ネットワーク)は、京都で学ぶ留学生向けに色々な支援を行い、役立つ情報もサイトで発信しています。留学する時に知りたい事、例えば、学校情報、住居の探し方、生活費、アルバイトや奨学金などの情報を多言語で掲載しています。

スタディ京都は京都の学校だけでなく、京都府・京都市をはじめ、様々な団体が加盟しています。新しく京都に来た留学生が交流できるコミュニティを探すときにも、ウェブサイトで見つけることができます。大学別に、各国の留学生会(中国、台湾、タイ、インドネシア、ベトナムなどの団体)もありますが、もしコミュニティが見つからない場合は、スタディ京都のKyoTomorrow Academy (KTA) というコミュニティに参加することをおすすめします。そうすれば、今後自国の留学生が来た時には仲間を見つけれられるようになります。また、KTAでは日本人学生や他の国の留学生とも交流することができます。留学生同士が、出身国や所属する学校をこえて、助け合ったり、イベントを開催したりして交流を深めています。あなたもぜひ参加してみましよう。

◆ Study Kyoto: <https://www.studykyoto.jp/>

◆ KyoTomorrow Academy: <https://www.studykyoto.jp/kyotomorrowacademy/>

ジミー (許 俊暉)

きょうと ホタル 京都の蛍

ホタルは、京都でとてもなじみ深い虫です。古くから知られ、日本書紀（720年頃）や万葉集（800年頃）でも取り上げられています。ほかにも源氏物語（1008年頃）や伊勢物語など、平安時代（794年～1185年）の古典文学にも登場し、およそ200首の和歌にも詠まれています。

日本には54種のホタルがいます。ほとんどが陸生ですが、水生も3種おり、幼虫の時期を水辺を過ごします。もっとも有名な2種であるゲンジボタルとヘイケボタルは水生なので、ホタルは川や池のそばにしかいないと日本人のほとんどが思っていますが、実際は水辺からずっと離れた場所にも陸生のホタルがいるのです。日本語には「ホタル狩り」という特別な言葉があります。これは、ホタル、特にゲンジボタルを観賞するという意味です。ホタルは一生を1年で終えます。卵から成虫まで、ホタルはこの段階でも発光します。蛹の時期まではとてもぼんやりとですが、成虫は強くはっきりと発光し、それによって出会い交尾します。成虫の時期はたった1週間で終わり、死んでしまいます。



ゲンジボタル(学名): *Luciola cruciata*

京都では、日が沈んでから1時間後、小さな川のそばや田んぼでホタルがよく見られます。夏のはじめ、ホタルの鑑賞ポイントとして有名なのは、白川（三条通）、みそそぎ川（二条通）、琵琶湖疏水分線（哲学の道）、明神川（上賀茂神社）です。今年はずいぶん、最高に美しくロマンティックな初夏の眺めを楽しんでください。

げんぶん まちの よういち ほんやく ふじた
原文：町野陽一、翻訳：藤田リサ

kokoka news * * * Kyoto International Community House news * * *

がいこくじん ほうりつ そうだん 外国人のためのビザ・法律相談

ほうりつ ビザについて、わからないことはありませんか？毎月2回専門家がみなさんの相談にお応えします。つうやくしゃ ひみつ まも わりよう じぜん よやく
通訳者もいます。秘密を守ります。無料。事前に予約してください。

◆ TEL : 075-752-3511

◆ 年間スケジュール : <https://www.kcif.or.jp/web/jp/support/counselling/>

ダイバーシティに関する制度

みなさんはSDGsという言葉を知っていますか。

SDGsとは、「持続可能な開発目標」の事を言います。これには、2015年に国連で決められた2030年までに達成すべき17の目標が書かれています。そして「誰一人取り残さない」世界の実現を目指しています。

さて今回は、京都市におけるダイバーシティ（多様性への尊重）に関する制度についてご紹介いたします。京都市では、2020年9月に「京都市パートナーシップ宣誓制度」が開始されました。これにより、一人または両方が性的少数者である二人に、人生のパートナーであることを誓うことによって、市から受領証を受け取る事が出来ます。この受領証は、病院の病状説明や市営住宅の申し込みのほか、生活のいろいろな場面で二人の関係を説明するときに使うことができます。

実はこうした制度もSDGsに関する取り組みの一部です。SDGsには他にも様々なテーマが掲げられていますので、自分にできることがないか一度考えてみてはどうでしょうか。

詳しくは、京都市情報館のホームページをご覧ください。



にしき みえ
西木 美恵

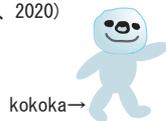
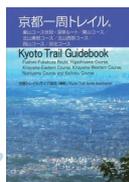
kokoka 京都市国際交流会館 2F kokoPlaza

としよ レター

ねん ど はるごう
2021 年度 春号
がつ
(4・5・6月)

📖 オススメの二冊

きょうと いっしゅう
『京都一周トレイル』
きょうと ぎょうかい へんちよ
(京都トレイルガイド協会 編著、
しゅつぽん
ナカニシヤ出版、2020)



kokoka→

この本では、京都の市街地とその周辺に設けられた約135kmのトレッキングコースを日本語と英語で紹介しています。説明がとても詳しく、また写真やコースマップも多く掲載されているので、みなさんぜひトレッキングの参考に、2F kokoPlazaへ読みに来てくださいね。kokokaもひさびさにトレッキングをして、マイナスイオンをたくさん浴びたいです。

※kokokaは京都市国際交流会館のマスコットです。

れきし か にん じよせい
『歴史を変えた50人の女性アスリートたち』
ちよ のなか やく
(レイチェル・イグノトフスキー 著、野中 モモ 訳、
そうげんしゃ
創元社、2019)



この本では、世界の女性アスリートたち50人の輝かしい成績、そして個性際立つ人生が、かわいいイラストとともに紹介されていますので、ぜひ読んでみてくださいね。

kokokaもいつか、彼女たちのように何かすばらしい事を成し遂げたいと思います。

📖 kokoPlazaにはこんな本もあります

がいこく じん にほん せいかつ ほん
外国人が日本で生活するための本

にほんご がくしゅう ほうりつ にほん ぶんか きょうとかんこう くに しんぶん
日本語学習、法律ビザ、日本文化、京都観光、いろいろな国の新聞

にほん じん がいこく し ほん
日本人が外国を知るための本

かいがいりょこう りゅうがく ロングステイ、ワーキングホリデー、ボランティア

📖 貸し出しはしていません。

【オープン】9:30～17:00
げつようび げつまつさいしゅうび へいしつ
(月曜日&月末最終日閉室)

【TEL】075-752-1187

【FAX】075-752-3510

ライブハウス

皆さんは、日本でライブハウスへ行ったことがありますか。「ライブハウス」は日本の言い方なので、もしかしたら「live music club」と言ったほうが分かりやすいかもしれませんね。皆さんの国にもライブハウスがあると思います。日本でも海外でもライブハウスは基本的に飲食店という扱いになっていますが、日本と海外のライブハウスには違うところもあります。



まず、海外のライブハウスはステージがカフェやバーなどと同じ部屋にあって、お客さんがテーブル席で食事しながら演奏を聴くところが多いです。しかし、日本ではステージが専用の部屋になっていて、観客が立って演奏を聴くところが多いです。また、日本ではライブのチケット代の他に通常は500円ぐらいのドリンク代が必要なものも海外と違うところです。

京都にも多くのライブハウスがあります。京都は外国人観光客が多いので、ライブハウスの中には外国人観光客の入場料を安くしているところもあります。音楽は大衆文化のひとつなので、ライブハウスは外国人が日本の大衆文化に触れるのにも良い場所だと思います。

しかし今、新型コロナウイルス感染症の影響で、ライブハウスは苦しい状況にあります。それでも、いろいろな感染対策をしながら必死にライブを続けています。そんな中で、京都のライブハウスを支援するために募金活動を始めた人たちもいます。京都市も十分なコロナ対策をしているライブハウスや出演者に補助を行っています。新型コロナウイルスが早く収束して、また安心してライブを楽しめるようになって欲しいですね。

すずき ひでとし
鈴木 秀利

■「春号」編集ボランティアチーム

生田 稔 / アシュリー・クレイトン / カール・ジャンスマ / 金谷 千菜美 / 小谷 仁美 / 川崎 雅司 / 古園 美樹 / 佐藤 未奈 / ジミー (許 俊暉) / 周 暁春 / 鈴木 翔一郎 / 鈴木 秀利 / 近本 功司 / 西木 美恵 / 藤田 リサ / 古田 富好 / 町野 陽一 / 水野 裕司 / 室岡 喜一郎 / 八木 俊幸 / 湯澤 公朗 / 林 秀 鳳

■発行:(公財)京都市国際交流協会

TEL : 075-752-3511 FAX : 075-752-3510

E-mail : office@kcif.or.jp

〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町 2-1 地下鉄東西線 [T09] 蹴上駅より 徒歩 6 分

開館時間 : 9:00 - 21:00 休館日 : 月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日休館)

読んで頂きありがとうございます!
オンラインでも読むことができます!



ぜひ感想を聞かせてください!
office@kcif.or.jp

